

1. 下記のホルモンの主な作用として正しいのはどれか

- | | | |
|--------------|---|--------|
| (1) セクレチン | — | 膵液分泌抑制 |
| (2) コレシストキニン | — | 膵液分泌抑制 |
| (3) グルカゴン | — | 胃運動抑制 |
| (4) インスリン | — | 血糖低下 |
| (5) ガストリン | — | 胃酸分泌抑制 |

- (a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

2. 正しい組み合わせはどれか

- | | | |
|-----------------|---|------------------|
| (1) 食道胃移行部 | — | 幽門 |
| (2) 胃十二指腸移行部 | — | 噴門 |
| (3) 空腸回腸移行部 | — | トライツ (Treitz) 靱帯 |
| (4) 回腸結腸移行部 | — | バウヒン (Bauhin) 弁 |
| (5) 横行結腸下行結腸移行部 | — | 脾湾曲部 |

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

3. 50歳男性。左側顎下部に鶏卵大の無痛性、弾性硬、可動性の腫瘤を触知した。唾液腺造影 CT 検査にて、顎下腺の半月状欠損像と後方圧排像が認められた。最も疑われる疾患はどれか。

- (a) 唾石症
(b) 顎下型がま腫
(c) 多形腺腫
(d) リンパ管腫
(e) Sjogren 症候群

4. がま腫について正しいのはどれか

- (1) 顎下腺に発生することが多い
(2) 唾液腺腫瘍である
(3) 口腔底部の片側に生じることが多い
(4) 唾液の軟組織内貯留により生じる
(5) 開窓療法は無効である

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

5. 咬合不正（咬み合せの異常）を生じる骨折はどれか

- (1) 下顎骨体部骨折
(2) 下顎骨関節突起骨折
(3) 下顎骨筋突起骨折
(4) 頬骨弓骨折
(5) Le Fort I 型骨折

- (a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

6. 唇顎口蓋裂について正しいのはどれか

- (a) 唇裂は正中が最も多い
(b) 唇裂の閉鎖は生後すぐ行う
(c) 顎口蓋裂の閉鎖は生後すぐに行う
(d) 哺乳指導が必要である
(e) 不正咬合を伴うことは少ない

7. 口腔癌について正しいのはどれか

- (1) 放射線治療は有効ではない
(2) 部位別では口唇に多い
(3) 発現年齢では若年者に多い
(4) 組織型では扁平上皮癌が多い
(5) 遠隔転移部位では肺が多い

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

8. 歯性上顎洞炎について正しいのはどれか

- (a) 顎骨の破壊が著明である
(b) 切歯が原因歯となることが多い
(c) 左右同時に発症することが多い
(d) 上顎洞の X 線透過性が亢進する
(e) う歯や歯周炎が原因で生じる

9. 顎運動に関与しない筋はどれか

- (a) 咬筋
(b) 側頭筋
(c) 顎二腹筋
(d) 顎舌骨筋
(e) 頬筋

10. 大唾液腺に発生する唾石症について正しいのはどれか

- (a) 唾液腺造影で導管の断絶と狭窄がみられる
(b) 唾石は舌下腺に多くみられる
(c) 唾石の主成分は硝酸石灰である
(d) 腺体内唾石は自然排出されやすい
(e) 摂食時の唾液流出障害により唾疝痛を生じることがある

11. 唾液腺癌のうち、最も予後不良な病理組織型はどれか

- (a) 多型線種
(b) 腺癌
(c) 粘表皮癌
(d) 唾液導管癌
(e) ワルチン腫瘍

12. 咽頭癌について正しいのはどれか

- (1) Epstein-Barr virus は上咽頭癌の発生に関与している
- (2) ヒトパピローマウイルスは中咽頭癌の発生に関与している
- (3) 飲酒は下咽頭癌の発がん因子である
- (4) 上咽頭癌は、放射線感受性が低い
- (5) 上咽頭癌は、高分化型扁平上皮癌の占める割合が高い

(a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

13. 食道造影検査について正しいものはどれか

- (a) 頸部食道 (Ce) と胸部上部食道 (Ut) の境界は胸骨柄である
- (b) Ut と胸部中部食道 (Mt) の境界は大動脈分岐部である
- (c) Mt と胸部下部食道 (Lt) の境界は Ut/Mt 境界から噴門部までを 2 等分した部位である
- (d) 食道造影上、Mt と Lt の長さは等しい
- (e) 第 2 斜位では椎体と食道の重なりが少なく観察しやすい

14. 注腸造影検査所見と疾患の組合せとして正しいものはどれか

- (1) 潰瘍性大腸炎 — skip lesion
- (2) Crohn 病 — cobble stone appearance
- (3) 虚血性腸炎 — thumb printing sign
- (4) 進行大腸癌 — lead pipe appearance
- (5) 腸重責 — whirl sign

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

15. 絞扼性イレウスを疑わせる CT 所見として正しいものはどれか

- (1) beak sign
- (2) colon cut off sign
- (3) foot ball sign
- (4) Rigler's sign
- (5) closed loop sign

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

16. 下記疾患の治療において化学放射線治療が有効なものはどれか

- (1) 食道癌
- (2) 膵臓癌
- (3) 胃癌
- (4) 肝臓癌
- (5) 結腸癌

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

17. 消化器癌の放射線治療について誤っているものはどれか

- (1) 進行食道癌に対する化学放射線治療の治療成績は外科治療の治療成績よりかなり劣る
- (2) 肝細胞癌の門脈腫瘍栓が存在する場合は放射線治療の適応がある
- (3) 食道癌に対する放射線治療の副作用に放射線肺臓炎がある
- (4) 膵癌の放射線感受性は低い、疼痛緩和の照射は有効である
- (5) 胆嚢癌の放射線感受性は低い、密封小線源治療の適応となることがある

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

18. 次の文章のうち誤っているものはどれか

- (1) 腸重責の代表的な画像所見として、target sign や pseudokidney sign がある
- (2) 小児の腸重責が生じやすい部位は横行結腸である
- (3) 高位空腸閉鎖では、double bubble sign が特徴的である
- (4) 中腸回転異常では無回転型が最も頻度が高い
- (5) 成人の腸重責の原因としては、腫瘍性病変が多い

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

19. 消化器癌 (肝・胆・膵) の放射線治療に関して誤っているものはどれか

- (1) 急性憩室炎では外科的治療が選択されることが多い
- (2) Meckel 憩室には、Tl (タリウム) -シンチグラフィが行われることがある
- (3) 急性虫垂炎の病期とし、カタル期、蜂窩織期、壊疽期がある
- (4) closed loop を形成した小腸イレウスは、絞扼性イレウスを生じやすい
- (5) 閉鎖孔ヘルニアは内ヘルニアに分類される

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

20. 食道癌について誤りはどれか

- (1) 好発部位は胸部中部食道である
- (2) 頭頸部癌との合併率が高い
- (3) Barrett 食道癌の頻度はやや低い
- (4) 内視鏡的メチレンブルー法は診断に有用である
- (5) Boerhaave 症候群の好発部位は胸部中部食道である

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

21. 食道表在癌の治療法の選択で正しい組合せはどれか

- (1) SM 癌は早期癌のためリンパ節郭清は不要である
- (2) SM2・SM3 癌ではリンパ節転移の頻度が高いため、根治手術の適応となる
- (3) m1 癌は ESD (内視鏡的粘膜下層剥離術) の適応である
- (4) m2 癌には脈管侵襲が認められるため、根治手術の適応となる

(a) 1,2 (b) 1,3 (c) 1,4 (d) 2,3 (e) 3,4

22. 胃切除術での機能温存手術について正しいものを選べ

- (a) 迷走神経腹腔枝の温存により、胆石症の予防が可能である

- (b) 幽門保存胃切除術において、保存される前庭部は幽門輪から 1.5cm までである
- (c) 幽門保存胃切除術は、B-I 再建、R-Y 再建に比較してダンピング症状が軽い
- (d) 分節切除術においてもリンパ節郭清は充分行うことができる
- (e) 神経温存手術では、D2 リンパ節郭清は不十分となる

23. 胃癌の治療方針について正しい組合せはどれか

- (1) 15cm 大のⅡc 型・印鑑細胞癌は、内視鏡下粘膜下層剥離術の適応ではある
- (2) 幽門狭窄を伴う高度進行胃癌に対して、バイパス術を施行後に抗癌剤治療が行われることがある
- (3) 胃癌手術において、脾摘出術はリンパ節郭清の目的で行われる
- (4) 一般的に腹腔鏡下胃切除術は、開腹胃切除術に比べて手術時間が短く、低侵襲である
- (5) 抗癌剤治療は、手術後に行うのが一般的である

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

24. 胃癌に対する胃全摘術で切断する血管はどれか

- (1) 胃十二指腸動脈
- (2) 左下横隔膜動脈
- (3) 短胃動脈
- (4) 後胃動脈
- (5) 上前臍十二指腸動脈

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

25. 胃切除後の術後障害について正しいものを選べ

- (1) oxyhyperglycemia は、食後 2 時間の高血糖である
- (2) 後期ダンピング徴候は、インスリンの早期過剰分泌による低血糖症状である
- (3) 胃全摘術後のビタミン B12 吸収障害は、ビタミン B12 内服薬により改善することがある
- (4) 胃が残っていれば、鉄欠乏性貧血はまれである
- (5) 迷走神経温存手術により、術後の総胆管結石の頻度は減少する

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

26. 結腸癌について正しいのはどれか

- (1) 浸潤潰瘍型が多い
- (2) 左側結腸癌はイレウスをきたしやすい
- (3) S 状結腸癌の頻度がもっとも多い
- (4) 血行性転移臓器は肺がもっとも多い
- (5) 結腸癌の再発形式は、肝転移より腹膜播種の方が多い

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

27. 大腸癌について正しいものはどれか

- (1) 結腸癌では転移臓器は肝臓が最も多い
- (2) 早期癌ではリンパ節転移を認めない
- (3) 直腸癌手術では半数以上に永久的人工肛門が造設される
- (4) 最近では下部直腸癌に対し腹会陰式直腸切除術（マイルス手術）は減っている
- (5) 治癒切除後の 5 年生存率は結腸癌が直腸癌より良好である

- (a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

28. 腸管感染症について、正しいものはどれか

- (1) 免疫抑制状態では、サイトメガロ腸炎が発症する可能性がある
- (2) 偽膜性腸炎の薬物治療の第一選択はバンコマイシン経口投与である
- (3) アメーバ赤痢の確定診断には便培養検査が必須である
- (4) 回盲部の腸結核は稀である
- (5) 腸管スピロヘータ症は重症化した後に発見される場合が多い

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

29. A 型胃炎について、正しいものはどれか

- (1) 大球性貧血を合併することがある
- (2) カルチノイドが多発することがある
- (3) H.pylori 感染がある場合は発症しない
- (4) 主細胞が主に障害されて起こる
- (5) 病変は前庭部（antrum）中心の分布となる

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

30. 大腸疾患の分類法、病因、及び組織像について、正しいものはどれか

- (1) Duke's 分類は大腸癌の肉眼形態の分類である
- (2) 家族性大腸腺腫症は K-ras 遺伝子の germline mutation が原因とされる
- (3) クローン病は乾酪壊死を伴う類上皮肉芽腫が特徴的である
- (4) 潰瘍性大腸炎の活動期には陰窩膿瘍が見られることが多い
- (5) Goligher 分類は痔核の病期分類である

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

31. 胃、及び十二指腸疾患の病因、組織像について正しいものはどれか

- (1) MALT リンパ腫は H.pylori 感染と関係がある
- (2) Gastrointestinal stromal tumor (GIST) の約 90%は免疫染色で c-KIT 陽性である
- (3) セリアック病は Tropheryma whipplei の感染が原因とされる
- (4) 胃生検材で adenoma は Group4 に分類される
- (5) Borrmann 分類は癌の壁深達度、リンパ節転移で判定する

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

32. 内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の適応外病変はどれか

- (a) 大きさ 6cm、Ⅱ a m 癌 ul (-) 分化型腺癌
- (b) 大きさ 3cm、Ⅱ c m 癌 ul (-) 未分化型腺癌
- (a) 大きさ 2cm、Ⅱ c sml 癌 ul (-) 分化型腺癌
- (a) 大きさ 2cm、Ⅱ c m 癌 ul (+) 分化型腺癌
- (a) 大きさ 1cm、Ⅱ c m 癌 ul (-) 未分化型腺癌

33. 50 歳の男性、上部消化管内視鏡検査を施行したところ、前庭部大彎に発赤調の陥凹性病変を認めた。同部からの生検による病理組織は MALT (mucosa-associated lymphoid tissue) であった。また Helicobacter pylori 陽性であった。本症例でまず行う治療はどれか

- (a) 経過観察
- (b) Helicobacter pylori 除菌療法
- (c) 化学療法
- (d) 放射線療法
- (e) 外科手術

34. 蛋白漏出性胃腸症について正しいのはどれか

- (a) 血清中の IgG は増加する
- (b) ¹³¹I-アルブミンシンチグラフィは診断に有用である
- (c) α₁-アンチトリプシンクリアランスは低下する
- (d) 腹痛あるいは便秘を伴う
- (e) 多くは幼少期に発症する

35. 食道疾患に関する次の記述のうち正しいのはどれか

- (1) 食道異物は第 2 狭窄部に最も多く見られる
- (2) 胸部中部食道 (Mt)は漿膜に覆われている
- (3) 食道アカラシアの分類として Los Angeles 分類がある
- (4) 早期食道癌は、原発巣の壁深達度が粘膜内にとどまり、リンパ節転移の有無は問わない
- (5) RC サイン陽性を伴う食道静脈瘤は治療適応である

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

36. 大腸癌について正しいのはどれか

- (a) 早期診断には CEA 測定が有用である
- (b) 低分化型腺癌が多い
- (c) 潰瘍浸潤型が多い
- (d) 遠隔臓器への転移では肝転移が多い
- (e) 早期癌ではリンパ節転移はない

37. Crohn 病について正しいのはどれか

- (1) 発病は 10、20 歳代に多い
- (2) 病変は連続性である
- (3) 生検で乾酪性肉芽腫が認められる
- (4) 炎症は腸管全層に波及する場合が多い

- (5) 肛門部病変を伴うことが多い

- (a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

38. 潰瘍性大腸炎における大腸癌発生の危険因子として重要なものはどれか

- (1) 全大腸炎型
- (2) 急性電撃型
- (3) 直腸炎型
- (4) 慢性持続型
- (5) 若年発症型

- (a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

39. 次のうちで正しい組み合わせはどれか

- (1) AGML の原因としてアルコールや NSAIDs 、ストレスが挙げられる
- (2) 慢性胃炎の内視鏡的分類として Los Angeles 分類がある
- (3) 主細胞は塩酸および内因子を産生・分泌する
- (4) 胃底腺ポリープは高頻度に癌化する
- (5) H.pylori 陽性の慢性萎縮性胃炎患者は胃癌発生の高危険群である

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

40. 次のうちで正しい組み合わせはどれか

- (1) 肥厚性幽門狭窄症は X 線像で”double bubble sign”を呈する
- (2) 血栓性血小板減少性紫斑病は H.pylori 除菌療法の保険適応である
- (3) H.pylori の存在診断として尿素呼気テストが用いられる
- (4) 出血性潰瘍に対して内視鏡的止血術は有効である
- (5) 機能性胃腸症ではしばしば胃潰瘍を合併する

- (a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5